

採卵鶏の長期利用飼養管理技術の検討

誌名	九州農業研究
ISSN	04511581
著者	後田, 正樹 真鳥, 清
巻/号	55号
掲載ページ	p. 107-107
発行年月	1993年8月

採卵鶏の長期利用飼養管理技術の検討

後田正樹, 真鳥 清 (長崎県畜産試験場)

Masaki USHIRODA and Kiyoshi MATORI: Study of the Feeding Control in Long Utilized Layer

採卵鶏農家では、鶏の償却費低減及び卵の出荷調整を図るため、強制換羽技術を利用して長期間効率的に飼養される傾向にあるが、その飼養管理技術については確立されていないのが現状である。そこで、本試験では、これらに関する給与飼料の効率的CP水準について検討した。

1. 試験方法

- 1) 供試鶏 1990年8月5日餌付けの白玉鶏2銘柄(320羽)
- 2) 供試鶏舎 ケージ間口22.5cmの単飼開放鶏舎
- 3) 試験区分 採卵鶏2銘柄をME2800kcalのCP18%飼料とCP16%飼料の2給与区分にし、それぞれ不断給餌とした。また、各区とも40羽の2反復とした。
- 4) 試験期間 1991年1月2日～'92年7月24日(151日齢～720日齢)
- 5) 強制換羽の方法 1991年11月27日(480日齢時)の体重測定から25%以上減少するように、3日間絶食絶水処理、その後の7日間絶食処理を行った。
- 6) 調査項目 産卵率、卵重、規格別鶏卵生産割合、産卵日量、飼料消費量、飼料要求率、体重、ハウユニット

2. 結果及び考察

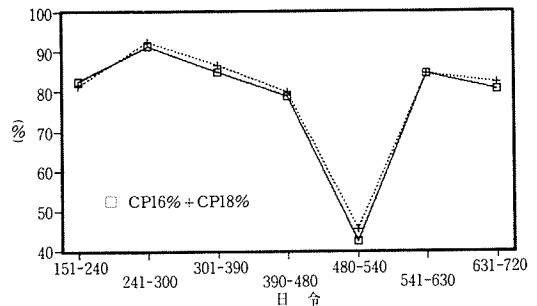
産卵率は全期間においてCP18%区がCP16%区より高く、特に夏期にあたる301-390日齢においてCP18%区がCP16%区より高い傾向がみられた(第1図)。卵重は、全期間においてCP18%区がCP16%区より重く、特に強制換羽後、このような傾向が顕著にみられたが、CP18%区はCP16%区より76g以上の規格外卵の割合が多くなった。産卵日量は、全期間においてCP18%区がCP16%区より多い傾向を示した。飼料消費量は、強制換羽前で一定の傾向がみられなかったが、強制換羽後においては、産卵日量の多いCP18%区がCP16%区より多くなる傾向がみられた。飼料要求率は、全期間においてCP18%区がCP16%区より低く、特に飼料消費量が低下する夏期の301-390日齢において明らかに低い傾向がみられた(第2図)。体重は、全期間においてCP18%区がCP16%区より重く、特に強制換羽後、このような傾向が顕著にみられた(第3図)。ハウユニットは、全期間においてCP16%区がCP18%区より高かった。

以上のことから、CP18%とCP16%の飼料を給与した場合の産卵率等を比較すると、CP18%飼料は全期間において優れた成績を示し、特に飼料消費量が低下する夏期高温時において産卵日量の減少を緩和することができ

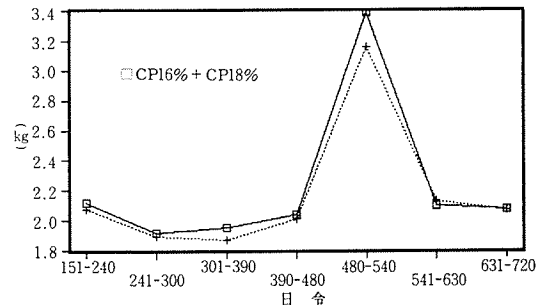
たが、強制換羽後において体重及び規格外卵の増加が認められたため、過剰なCP水準とも考えられる。

よって、夏期餌付け採卵鶏を長期利用する場合の効率的なCP水準は、強制換羽前がCP18%、強制換羽後がCP16%であると考えられた。

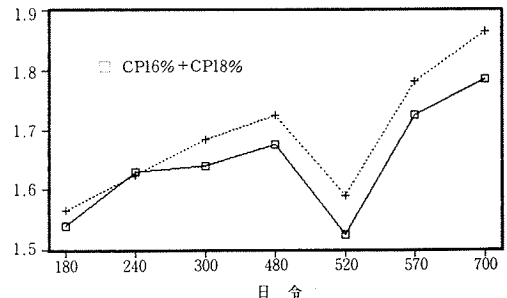
今後の研究では、餌付け時期別の効率的なCP水準及びその最適な強制換羽時期についてさらに検討していくことにしている。



第1図 産卵率の推移 (季節別)



第2図 飼料要求率の推移 (季節別)



第3図 体重の推移 (季節別)